

琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況

- ・ ニゴロブナ等の産卵・繁殖の場となるヨシ帯造成

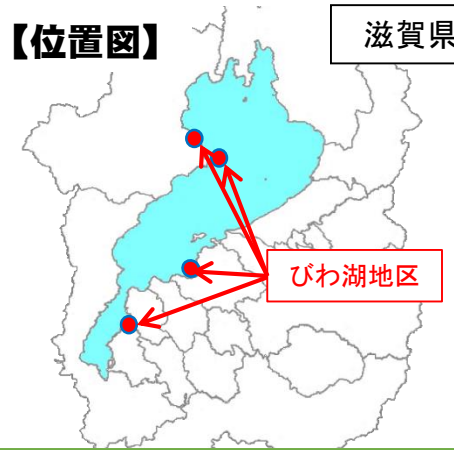
農 林 水 産 省

ニゴロブナ等の産卵・繁殖の場となるヨシ帯造成

概要

- 琵琶湖岸は、水ヨシ帯が広がる良好なニゴロブナ等の産卵・繁殖の場であったが、開発等の影響によりヨシ面積が減少。これに伴い同種の漁獲量も減少。
- このため、安定的に漁獲のあった時期の規模まで水ヨシ帯を回復すべく、着定基質の整備等により水ヨシ帯を造成し、ニゴロブナ等の漁獲量の回復を目指している。
- これまでの造成の結果、造成ヨシ帯においてニゴロブナ等の産卵・繁殖に好適な環境が回復傾向にあり「鮒ずし」原料である同種の漁獲量が回復の兆し。

【位置図】



滋賀県

対策

水ヨシ帯造成に向け、ヨシの生育に最適な水深となる琵琶湖水位-30~50cmへの盛土等によりヨシ生育基盤を造成するとともに、ヨシの植栽を実施。



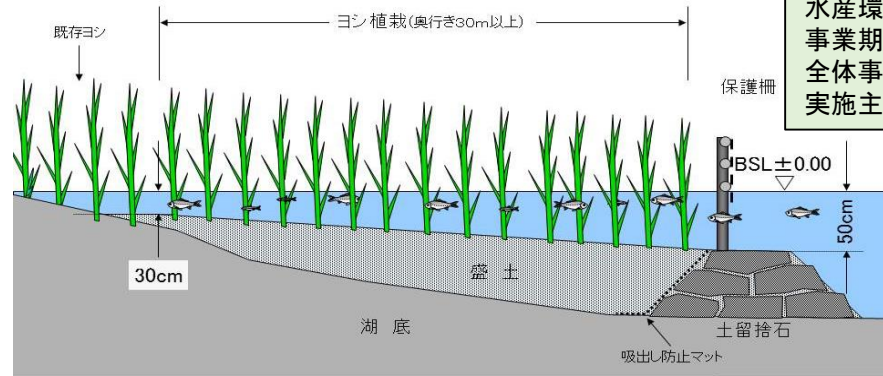
衰退するヨシ帯



造成、ヨシ植栽を実施



造成後、成長するヨシ帯



水産環境整備事業
事業期間：H29年～R8年度
全体事業費：2,282百万円
実施主体：滋賀県

効果

造成ヨシ帯において、産卵・繁殖に適するヨシ以外の抽水植物も増加。

➡ ニゴロブナの漁獲量が回復の兆し

ニゴロブナの漁獲量

